

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	東海市	
施 設 名	東海市芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	33,124	(千円)
	公 演 事 業	17,221 (千円)
	人 材 養 成 事 業	9,946 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,957 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	野村萬斎 狂言の世界	2022年5月27日(金)	出演：野村萬斎、石田幸雄、高野和憲、岡聡史、中村修一、内藤連、野村裕基	目標値	840
		大ホール		実績値	873
2	諏訪内晶子ヴァイオリンリサイタル		新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	800
		大ホール※中止		実績値	-
3	愛知県立芸術大学管弦楽団ワンコイン・コンサート	2022年6月18日(土)	出演：太田弦(指揮者)、愛知県立芸術大学管弦楽団(管弦楽)	目標値	750
		大ホール		実績値	646
4	～ひとづくりパートナーシップ・シリーズ～ 名フィルの夏特別公演 アルミンク &名フィル「マーラー5」	2022年7月16日(土)	出演：クリスティアン・アルミンク(指揮者)、名古屋フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)	目標値	840
		大ホール		実績値	573
5	キエフ(キーウ)・クラシック・バレエ	2022年9月11日(日)	出演：キエフ(キーウ)・クラシック・バレエ	目標値	820
		大ホール		実績値	949
6	アンサンブル・ウィーン=ベルリン with オーケストラ	2022年10月1日(土)	出演：アンサンブル・ウィーン=ベルリン(木管五重奏)、愛知室内オーケストラ(管弦楽)	目標値	830
		大ホール		実績値	602
7	音楽をめぐる冒険 堤剛 チェロ・リサイタル	2022年10月15日(土)	出演：堤剛(チェロ)、須関裕子(ピアノ)	目標値	250
		多目的ホール		実績値	233
8	～JAZZの劇場～大西順子カルテット	2022年11月12日(土)	出演：大西順子(ジャズピアノ)、井上陽介(ベース)、大儀見元(パーカッション)、吉良創太(ドラムス)	目標値	590
		大ホール		実績値	688
9	ポップス・コンサート	2023年3月16日(木)	出演：森山良子	目標値	785
		大ホール		実績値	964
10	～ひとづくりパートナーシップ・シリーズ～笑う劇場 よしもと新喜劇&バラエティ	2023年1月21日(土)	出演：吉本興業所属芸人	目標値	1,800
		大ホール		実績値	1,837
11	～ひとづくりパートナーシップ・シリーズ～名フィル・竹本泰蔵のライブ・スクリーン・コンサート	2023年3月19日(日)	出演：竹本泰蔵(指揮)、名古屋フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)、庄司宇芽香(声優)他	目標値	780
		大ホール		実績値	410
12	超・オペラぺらぺらコンサート「ラ・ボエーム」	2023年2月26日(日)	出演：天羽明恵、種谷典子、村上敏明、須藤慎吾、古藤田みゆき、又吉秀樹、東海児童合唱団、東海市民合唱団	目標値	490
		大ホール		実績値	316
13	東海市紅白歌合戦	2022年12月25日(日)	出演：出演者オーディション合格者20組、TOKAI ROCK FES.2021入賞者2組、応援合戦出演団体 他	目標値	800
		大ホール		実績値	443

14	TOKAI ROCK FES.	2022年8月27日(土)	出演※：マゲロニカ、00's Club(オース クラブ)、WEDDIN' Girl、一原ちひろ、 THE LOSER、公募で集まったバンド	目標値	320
		8月28日(日)		多目的ホール	実績値

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東海市子どものオーケストラ	通年	講師：清水醍輝（指揮者）、名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員等	目標値	125
		各練習室		実績値	95
2	東海児童合唱団	通年	講師 磯部和恵（合唱指揮）、加藤久美子（伴奏）、宮脇千晴（伴奏）	目標値	137
		各練習室		実績値	132
3	東海市ダンスチーム Miakot	通年	講師：Memorable Moment	目標値	40
		各練習室		実績値	40
4	東海市民合唱団	通年	講師：横山琢哉（合唱指揮）、安藤弘子（伴奏）	目標値	125
		各練習室		実績値	96

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	0歳からのわくわくオーケストラ	2023年1月14日(土)	出演：名古屋フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)、清水醍輝(指揮者)、ロバート・ボルシヨス(クラリネット)	目標値	650
		大ホール		実績値	755
2	おんがくさん はじめてコンサート	2022年9月5日(月) 9月13日(火) 2023年1月10日(火)	出演：名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員の管弦楽打楽器奏者1人、ピアニスト1人	目標値	600
		市内6保育園		実績値	309
3	出会いの教室	2022年6月6日～ 2023年1月26日	出演：名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員の管弦楽打楽器奏者1人、ピアニスト1人	目標値	1,200
		市内12小学校		実績値	1,104
4	劇場招待コンサート	2022年12月13日(火) 2023年1月13日(金)	出演：名古屋フィル交響楽団、伊藤翔(指揮者)、アイリス・レゲヴ(チェロ)、清水醍輝(指揮者)、ロバート・ボルシヨス(クラリネット)	目標値	2,180
		大ホール		実績値	2,519
5	嚶鳴サロンコンサート	2022年7月3日(日) 2023年2月25日(土)	出演：7/3 林裕人(テューバ)、福本真弓(ピッコロ)、2/25 天竺明恵(ソプラノ)、又吉秀樹(バリトン)、古藤田みゆき(ピッコロ)	目標値	360
		交流広場		実績値	122
6	ふれあいコンサート	2023年1月16日(金) 2023年3月6日(月)	出演：名古屋フィルハーモニー交響楽団楽団員	目標値	300
		市内福祉施設等		実績値	179
7	よしもと流楽しいコミュニケーション	【学校】2022年11月9日(水)、12月15日(木) 【コミュニティ】12月10日(土)	出演：【学校】金江夏生(構成作家)、アンダーポイント 他 【コミュニティ】八木真澄、アンダーポイント 他	目標値	200
		平洲小学校 市内2コミュニティ		実績値	764

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>東海市芸術劇場が掲げる最も重要な使命（ミッション）は「ひとづくり」である。「ひとづくり」は、本市の財産である市民をさらに心豊かで個性的な人材へと導き、それがまちづくりへとつながり、まちに「にぎわい」をもたらす。そのような気運の中でこそ、より多くの人々が心を開き、文化芸術に関心を向けやすくなり、「生きがい」となるような新しい“こと”や“もの”に出会う可能性が生まれ、これら「ひとづくり」の成果がより高い次元の「文化創造」へとつながっていく。このことから、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいづくり」という三つの柱を理念に掲げ、活力を持った「まち」であり続けられるよう事業を展開し、運営等に取り組んでいる。</p> <p>【公演事業】実施を予定していた事業の1つは新型コロナウイルス感染拡大の状況に伴い、止むなく事業中止となった。しかし、ミッション維持のために最大限の対策を講じ、事業実施に努め、多くの市民が良質な文化芸術に親しむきっかけを提供した。</p> <p>【人材養成事業】東海市子どものオーケストラ事業では、未経験者から経験者まで広く誰でも参加でき、子どもたちが早期に文化芸術に触れる環境を整備している。子どものオーケストラでは、令和2年度から中止としていた合宿について、基本的な感染防止対策を講じながら実施することができた。また、他の事業についても、多くの人々と協力して創り上げる活動を通じて、子どもたちの社会性を養う「ひとづくり」や市民同士の交流、「生きがいづくり」の場として成果を上げた。</p> <p>【普及啓発事業】0歳から誰もが入場可能なオーケストラ公演、市内6保育園及び市内全小学4年生へのアウトリーチ、市内全小学5年生及び市内全中学2年生への招待コンサート、全ての世代への無料ロビーコンサートについて、感染予防対策を講じながら実施した一方、計画した福祉施設でのアウトリーチは、先方より申し入れがあり、一部施設において開催場所を劇場に移して実施した。概ね、計画したとおりに、市民の年代・成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を行うことができた。また、音楽だけでなくコミュニケーション能力の向上を目指す事業も展開し、単発的な事業として終わることなく、長期的・継続的・発展的・横断的な事業展開を行うことで、文化芸術活動を通じた「ひとづくり」や「にぎわいづくり」の一助となった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>【公演事業】より高い次元の文化芸術を通じた次代を担う心豊かなひとづくり 市民にとって、徐々にオーケストラが身近な存在になっていることから、より質の高い実演芸術を体験することで、実演芸術の水準向上とより高い次元の文化芸術を通じた次代を担う心豊かなひとづくりを推進している。</p> <p>【人材養成事業】子どもから大人まで誰もが文化芸術に触れる環境、継続的に取り組むことができる場づくり 文化芸術活動を通じて子どもたちから大人まですべての市民が自主性・協調性・社会性を養うひとづくりへつなげ、子どものオーケストラ、児童合唱団、東海市ダンスチーム及び市民合唱団が定期的に公演を行うことで市民が実演芸術に触れる機会となり、芸術文化に対する興味関心を高めることで、芸術劇場を中心とした心豊かで生きがいのあるまちづくり・地域活性化に繋げる。</p> <p>【普及啓発事業】事業全体を単発的な事業に終わらせず、長期的・継続的・発展的・横断的な事業展開を行う 0歳からのコンサート（未就園児親子等）、出会いの教室（小4）、劇場招待コンサート（小5・中2）、嚶鳴サロンコンサート（全ての世代）という継続的・発展的な事業展開を行ったことで、子どもたちの文化芸術に関する興味関心を育み、実践していく心豊かな市民が育つ土壌の形成に繋げる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

目 標

- ・より質の高い実演芸術を体験することで、実演芸術の水準向上とより高い次元の文化芸術を通じた次代を担う心豊かなひとづくり

自己評価

劇場が運営する団体がプロの公演に出演し共演することにより、間近でプロの音楽家やオーケストラの演奏に接し、質の高い舞台芸術の経験を得ることで、更なる質の向上を図れ、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を形成するきっかけづくりとなった。一方、公演アンケートの結果から、多くの来場者に本事業を支持していただけており、心豊かで生きがいのあるまちづくりに向けて、地域全体で取り組む意識が醸成されてきている。

【人材養成事業】

目 標

- ・子どもから大人まで誰もが文化芸術に触れる環境、文化芸術活動に継続的に取り組むことができる場づくり
- ・子どもたちの社会性を養うひとづくり

自己評価

多くの人が協力して一つの音楽を創り上げる児童合唱団及びオーケストラの活動を通じて、本事業の目的である「ひとづくり」を行うことができた。また、子どものオーケストラ公演では「子どものオーケストラを地域で応援したいと思う・やや思う」が約95%、その他にも将来を期待する声が多く寄せられ、多くの方に本事業を支持していただけており、心豊かで生きがいのあるまちづくりに向けて、地域全体で取り組む意識が醸成されてきている。

【普及啓発事業】

目 標

- ・事業全体を単発的な事業に終わらせず、長期的・継続的・発展的・横断的な事業展開を行う
- ・戦略的に持続的な活力を持ったまちづくり・地方創生の実現へとつなげる。

自己評価

0歳からのコンサートは、0歳から親子（もしくは3世代）そろってオーケストラに触れる機会、障がい者が鑑賞できる機会、心のバリアフリーコンサートを通して相互に尊重し合い多様性を受け入れることができる社会の土壌を形成する一つの機会とすることができた。

小学4年生へのアウトリーチ事業は、優れた実演芸術に触れることで、豊かな感性を刺激し、音楽・楽器演奏に対する興味づくりや、文化芸術活動に参加するためのきっかけづくりに結びついている。

劇場招待コンサートでは、来場した児童及び生徒の75%以上が「今後もオーケストラの公演を鑑賞したい」と高い水準を保ったまま回答しており、音楽鑑賞体験を小学5年生、中学2年生と継続して行ったことが音楽やオーケストラに対する興味を持つきっかけとなり、将来的に器楽、オーケストラをはじめとした公演を鑑賞するため芸術劇場を訪れることに繋がり、文化芸術を身近に楽しむ地域性の醸成に効果があると考えられる。

令和3年度よりコミュニケーション能力の向上を目的とし、漫才を作るワークショップを市内小学校で展開しており、実施した学校からは、「生徒が自分から挨拶をするようになった」「学校の雰囲気明るくなった」等の評価があり、児童が楽しむだけでなく教職員からも高い評価を得ることができたといえる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

概ね当初の予定通り進んだ。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業の1つにおいて出演者を変更し、元々の事業内容からの変更を余儀なくされた。

入場者数は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い国等から示されたガイドラインに基づき、舞台と客席との距離の確保等の対策を講じて実施することになり、席数を減らして開催する公演もあった。

【人材養成事業】

各団体の練習については、概ね当初の予定通り進んだ。東海市子どものオーケストラは、パート毎に部屋を分散しながら練習に励み、第4回定期演奏会を実施することができた。東海児童合唱団は、8月に予定していた合宿を強化練習等に振り替えたが、リモートでのレッスンを行うなど感染対策に工夫を重ね、年間を通じて練習を実施し、第22回の定期演奏会を実施することができた。東海市ダンスチームにおいては、基本的な感染対策を講じながら練習を積み、3月に第4回定期発表会を開催した。東海市民合唱団については、感染症対策を講じながら練習を重ね、2月のオペラ公演と3月の第7回定期公演に出演した。オペラ公演ではプロの音楽家と共に舞台上での演技を経験し、団員の士気を高めた。

いずれの公演においても、アンケートには概ね好意的な回答が寄せられ、多くの市民に支持していただけており、心豊かで生きがいあるまちづくりに向けて、地域全体で取り組む意識の醸成が強く感じられるとともに、東海市芸術劇場が運営する団体への関心が高まっている表れであると推測できる。

【普及啓発事業】

助成対象事業全体を通じて成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を実施することで、単発的な事業に終わらせないよう、継続的・長期的・発展的・横断的な事業展開を行うために、新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、慎重に小中学校等と調整を行った結果、概ね予定通り実施することができた。ただし、ふれあいコンサートは会場が福祉施設であることから、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場側の希望で開催場所を芸術劇場に変更し、実施した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

事業費については、事業中止などがあり、当初の計画より支出額が少なくなった。

【人材養成事業】

練習等についての事業費は、子どものオーケストラ事業において、1日の中で1人の講師が基礎クラス、オーケストラクラスの両クラスを指導することで講師謝礼及び講師の旅費が減となったため、当初の計画より支出額は減となった。

【普及啓発事業】

無料や安価な入場料金設定とすることで、気軽に音楽に触れる機会を提供し、家族で文化芸術に親しむ機会を提供した。0歳からのコンサートと劇場招待コンサートを連続した2日間で開催し、嚶鳴サロンコンサートでは公演事業と連続した2日間で実施したことにより、出演料や楽器運搬に係る費用の縮小、出演者の旅費の減額にともない、当初の計画より支出額が少なくなった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【公演事業】 公演事業としては、下記の3点が挙げられる。

- ・アーティスト招聘元または出演者自身から公演の見どころ、聞きどころを伝える**プレトークイベント**を設け、オペラなど鑑賞に対して敷居が高く思われる内容の公演の関心の喚起に努めた。
- ・特に高校生以下の料金を安価に設定し、若い世代が鑑賞しやすい環境を整備することで、将来的な文化意識の底上げを継続して目指している。
- ・「東海市紅白歌合戦」、「TOKAI ROCK FES.」、「超・オペラペラペラコンサート『ラ・ボエーム』」等、市民が参加する公演を継続して実施し、劇場と市民の関わりを強め、市民もスキルを高めることができた。

【人材養成事業】 東海市子どものオーケストラ事業の特徴としては、下記の3点が挙げられる。

- ・参加を希望する児童・生徒に楽器を無償貸与し、誰もが高度な文化芸術活動へ挑戦できる環境を形成している。
- ・東海地方を代表するオーケストラである名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員による質の高い指導を行う。
- ・東海市子どものオーケストラ育成基金を設立し、地域で子どもたちを支える仕組み・環境を整備した。

東海児童合唱団事業の特徴としては、下記の2点が挙げられる。

- ・杉並児童合唱団を中心に全国の児童合唱団で組織する杉並会議に加盟しており、質の高い指導を受ける、全国の児童合唱団との交流を行うことで、子どもたちに様々な体験を得られる環境を整備している。
- ・年少児から大学生が在籍し、普段のレッスンから演奏会の舞台袖の動きなど保護者ではなく上級生が下級生を教える環境があり、合唱だけでなく挨拶や礼儀など社会性を身につけることができる環境にあり、合唱団の活動を通じ、子どもたちの社会性・地域性を養い、心豊かなひとづくりに大きく貢献している。

東海市ダンスチーム事業の特徴としては下記である。

- ・国内外のコンテストで入賞する実力と多くのワークショップを開催する指導力を備えた Memorable Moment に指導を依頼し、ジャンルにとらわれない新たな世界観を独自の表現力で魅せる力を育む指導をしている。

東海市民合唱団事業の特徴は下記のとおりである

- ・誰もが参加できる合唱を通して人との交流や合唱技術の向上など「いきがづくり」を目指し、また、オペラ公演に出演し、プロの音楽家との共演をすることで、市民としての誇りと自信を醸成した。

【普及啓発事業】

助成対象事業全体を通じて、成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を実施することで、単発的な事業に終わらせないよう、継続的・長期的・発展的・横断的な事業展開を行っている。主な特徴は下記のとおりである。

- ・**0歳から入場可能なオーケストラ公演**を提供し、誰もが鑑賞できる「心のバリアフリー公演」として、幅広く気軽に鑑賞できる場としている。多くの未就学児・乳幼児が来場するため、授乳室・オムツ替え・ベビーカースペースの拡充など、安心して来館・鑑賞できる環境を整備し、普段敬遠しがちな方・家族でも鑑賞しやすい環境を提供している。
- ・**小学校へのアウトリーチ（出会いの教室事業）**では、学校と事前打ち合わせを行い、児童が学習している曲目等を演奏曲に取り入れることで、児童の関心をより引き出すよう工夫している。
- ・プロの実演家との交流を行った翌年度に、教室でなくホールで鑑賞する機会を提供し、音楽への興味をより強くさせる。また、オーケストラの醍醐味を体感することで自らの活動意欲をかきたてることにつなげている。
- ・パブリックスペースで無料の**ロビーコンサート**を実施し、気軽に音楽に触れる機会を提供し、また、音楽鑑賞以外の劇場利用者にも質の高い文化芸術に触れる機会となり、広く市民へ感動を伝えることに繋がった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

東海市は、「公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団」及び「吉本興業株式会社」との間に「東海市ひとつづくりパートナーシップ協定」を結び、市と両団体の双方が互いの利点を活かし、連携することで、市民に質の高い文化芸術を鑑賞する機会を提供し、文化芸術活動を通してのひとつづくりや地域活性化に取り組んでいる。助成対象事業では、名古屋フィルハーモニー交響楽団やその楽員、吉本興業所属の芸人が出演することにより、質の高い文化芸術事業を展開し、もって東海市が目標とする「文化芸術を愛し、心輝く市民が育つまち」を基本理念としたひとつづくり、まちづくりの推進につなげている。

【公演事業】

プレトークイベントや声優とコラボレーションする公演を行い、オーケストラ等に触れる機会のなかった市民にも興味を持ってもらう工夫をすることで、より多くの市民がプロの演奏家による公演を鑑賞する機会を得ることができ、オーケストラを始め文化芸術全般に対する興味をもつきっかけづくりとなった。引き続き、芸術劇場を中心とした良質な文化芸術を提供し、文化芸術活動への参加意欲の向上、地域の文化芸術の発展に繋げていく。

【人材養成事業】

東海市子どものオーケストラ事業及び東海児童合唱団事業は、いずれも若い世代が文化芸術活動に継続的に取り組むことができる場づくりが課題であり、次代の文化芸術を担う人材育成のニーズが高いことから、子どもたち自らが主体となり文化芸術活動に取り組める場としてのオーケストラ及び児童合唱団を育成することで、次代の文化芸術を担い、本市の未来を担うひとつづくりを目的として実施している。また、多くの人々が協力して創りあげる各活動を通じて、子どもたちの社会性を養うひとつづくりを行うことで心豊かで生きがいのあるまちづくりの推進につなげている。子どもだけではなく、東海市ダンスチームや東海市民合唱団の活動を通して市民の「生きがいづくり」にも貢献し、裾野を広げるだけでなく、継続して文化芸術に触れ、生涯を通して市民が生き生きと活動できることを目指し、その道を進んでいる段階である。

東海市子どものオーケストラ第4回定期演奏会の来場者アンケートからは、「子どものオーケストラを地域で応援したいと思う・やや思う」が約95%、また、東海児童合唱団第22回定期演奏会の来場者アンケートからは、「公演内容に満足した」が90%以上寄せられたことから、いずれの事業も多くの方から支持されており、練習場所や時間等に制限がある中で精一杯練習に励んだ子どもたちに対する期待とともに、心豊かで生きがいのあるまちづくりに向けて地域全体で取り組むという意識が醸成されてきている。地域の中核劇場として様々な事業を実施したことで、市民の評価が向上しており、地域の文化芸術の発展につながっていると認められる。

【普及啓発事業】

本市には、アマチュアオーケストラさえなく、オーケストラ鑑賞に親しむ市民が少ない環境にあり、さらに0歳から親子（もしくは3世代）そろってオーケストラに触れる機会・障がい者が鑑賞できる機会がほとんど無かったことから、心のバリアフリーコンサートとして、0歳から入場可能なオーケストラ公演を提供することで、本市における音楽鑑賞の対象年齢を下げ、家庭に引きこもりがちな子育て世代の外出を促し、誰もが家族で音楽を通じたコミュニケーションが図られ、家庭からまちへ交流が広がることを目的として、事業を実施している。

また、本市は、子ども向けの文化芸術に関する鑑賞・体験プログラムの充実が課題であり、次代の文化芸術を担う人材育成のニーズが高いことが示されていることから、早期から質の高い文化芸術に触れる機会を成長に合わせ段階的に設け、本市の子どもたちへの音楽・楽器演奏に対する興味づくりや、様々な文化芸術活動へ取り組む意欲を高めることを目的として実施している。本事業をはじめ様々な事業を市内各所で幅広く実施したことで、市民アンケートから、文化活動が盛んなまちだと思える市民の割合が基準値 53.6%に対し 60.4%（昨年度は 60.2%）と高水準で推移しており、継続的な地域の文化芸術の発展につながっていると認められる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

下記のとおり、人材面・財政面ともに、持続的に発展することができる組織を構築するための取り組みを行っている。

【運営】

市の直営方式を用いている。目的の明確化、安定的な財源の確保・運営、地域の実情を把握した事業展開、文化芸術の持つ固有の意義と価値を観光、福祉、教育、産業振興等と有機的に連携した事業展開を行うことが可能である。組織、管理運営及びプログラムの企画・推進は、専門性を備え、施設の責任者である館長、芸術総監督が中心になって行う。その上で、運営のさまざまな場面において、市民の意見を吸収しながら、行政と市民が連携・協働・共創し、事業展開を行っている。

【ボランティア組織】

公募により市民スタッフを組織し、レセプションистとしての参加や企画・制作に参加することにより事業運営をサポートしている。市民スタッフが活躍することは、参加する市民にとっての誇りや生きがいを創出するとともに、市民がスタッフとして事業・運営へ参加していることを認識されることで、市民全体にとっても、施設や文化芸術を身近なものとして感じることができるという効果につながっている。

一定期間、運営をサポートし、最終的には、実力を持った組織となった後に自立し、芸術劇場の顔の一つになることを目標としている。

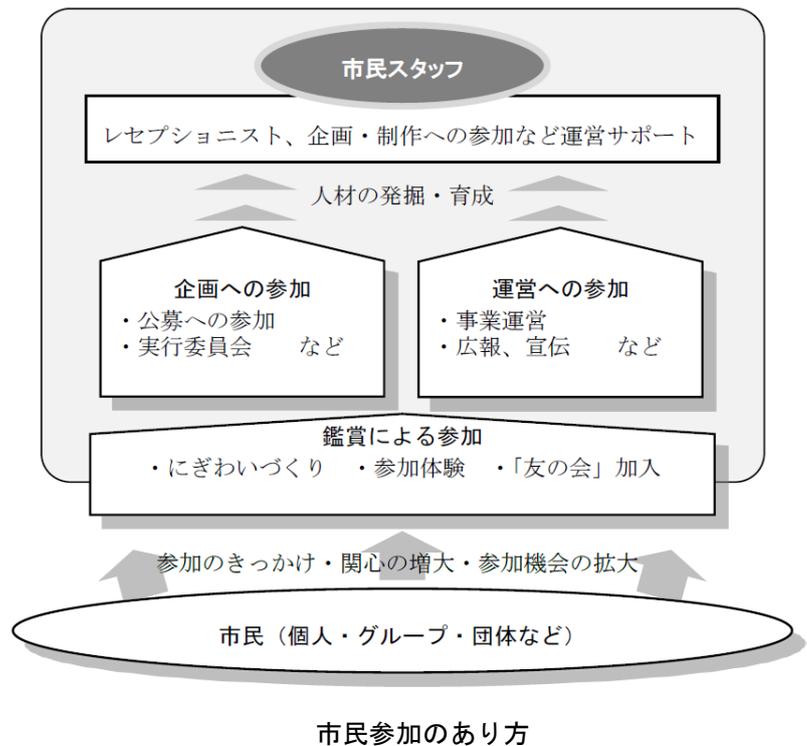
より多くの市民が芸術劇場の事業や運営に参加し、交流や理解へのきっかけづくりができるよう、継続的に活動に参加することが難しい市民でも、気軽に参加できる仕組みや機会を設けている。

【友の会組織】

友の会組織「ユウナルフレンドメンバーズ」があり、会員数は増加傾向にあり、令和4年度の会員数は約8,600名となっている。

【子どものオーケストラ育成基金】

子どものオーケストラ育成基金を設立し、寄附を地域の個人、団体、企業等から受けることで、地域全体で子どものオーケストラを応援・支えていく仕組みや環境を整備している（ふるさと納税制度のメニューとしても活用）。



市民参加のあり方